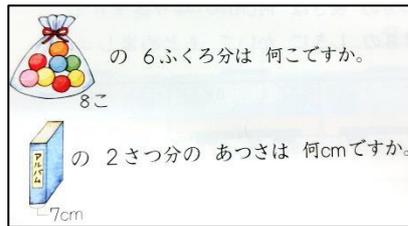
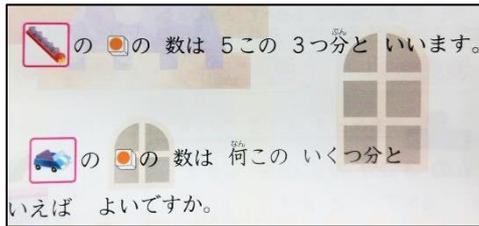


学年	教科等	単元名	日時
第2学年	算数科	かけ算(2)	平成29年10月18日(水)4校時
本実践の主張	<p>本時で習熟させたいのは、「基準量がいくつ分」というかけ算の基本となる見方・考え方です。そのために、九九を用いてチョコレートの数を数えるという活動をとおして、同じ数のまとまりを意識させ、それがいくつ分あるかという見方・考え方を養っていきます。発表の際、図と式とを別々に発表させ、「この図からどんな式をつかったの?」「この式はどんな図を表しているの?」と問い、具体的な場面から式へ、式から具体的な場面へと関連付けながら話し合わせることで、「基準量がいくつ分」という見方・考え方をより確かなものにしていきたいと考えます。</p>		

今回は、研究内容のうち「(1) 習熟の時間の在り方」について報告します。

習熟の時間の在り方

かけ算において、「基準量がいくつ分」という考え方は大変重要で、導入においても丁寧に確認すべき内容として記載されています。



(啓林館 わくわく算数2下より)

しかし、上のように基準量が明確に示されているものはよいのですが、問題文において基準量の提示が前後すると途端に分からなくなったり、九九の学習が始まってしまうと「基準量のいくつ分」という意識が薄れてしまったりすることも少なくなく、意外とこの「基準量のいくつ分」という考え方は子どもに確実に定着しきっていない現状があります。

そこで、2, 3, 4, 5の段の九九の構成が終わった時点で、右図を「九九を使って数えてみよう」というめあてに基づいた活動を設定することで、子どもが自然と基準となる同じ数のまとまりや、それがいくつあるかという見方・考え方を確かなものにしていけるような展開を考え、実践を行いました。



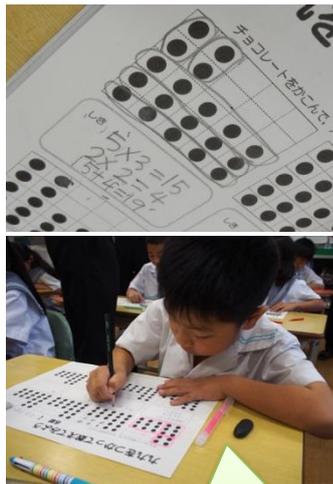
① 見通し



「こっちは5が2つあるので、 $5 \times 2 = 10$ です。ここは、3が3つありますよね。だから、ここは $3 \times 3 = 9$ です。合わせて19個です。」

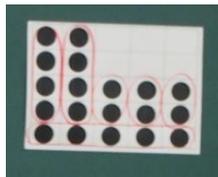
複数の九九とたし算を使ってもよいことを確認する。

② 個人で考える



「ここは2のまとまりがあるぞ。だから $2 \times \dots$ 。」

③ 全体で考える 図→式へ



T:「Aさんの図からどんな式ができるかな? どうして $\bigcirc \times \bigcirc$ なのかな?」

あそこに4が2つあるでしょ。だから $4 \times 2 = 8$ の式になるよ。

ここは 2×3 だね。だって2が1つ、2つ... (図にかきながら)



「どうして $\bigcirc \times \bigcirc$ になるのかな?」と問い返すことで、「 \bigcirc がいくつあるから...」という「基準量のいくつ分」という言葉を引き出す。

本実践をとおして、はじめは基準となる同じ数のまとまりが見えていなかった子どもも全体やペアとのやり取りのなかで少しずつ理解を深めることができました。計画通りに進まず、図→式の活動で終えることになりましたが、式→図の活動まで行うことができると、より「基準量のいくつ分」という見方・考え方の習熟が図れたのではないかと考えています。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

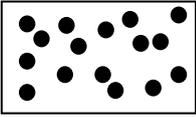
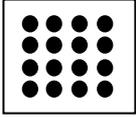
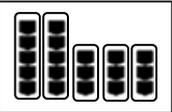
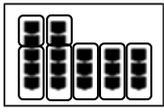
○ 指導計画（15 時間）

(1) 「基準量がいくつ分」という見方・考え方を再確認し、本単元の見通しをもつ。	1 時間（本時）
(2) アレイ図を用いて九九を構成し、その唱え方を知る。	5 時間
(3) かけ算を用いて問題を解く。	3 時間
・ かけ算と倍の考え方	1
・ 文章問題	1
・ 身の回りのかけ算探し	1
(4) かけ算九九に親しむ。	6 時間

○ 本時の目標

図の中から基準量を見付け出し、「基準量がいくつ分」という見方・考え方をより確かなものにし、本単元への意欲を高める。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 並べ方の違う●を数えるのにかかる時間の差から、本時のめあてをもつ。</p> <p>○ 2つの場合の比較</p> <p>ア  イ </p> <p>問い① どうしてイは、はやく数えられるの？</p> <p>○ 問い①に対する答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きれいに並んでいるから。」 <p>問い② どうして並んでいると簡単なの？</p> <p>○ 問い②に対する答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「4が4つつつ並んでいて、四四16と九九が使えるから。」 <p>○ 本時のめあて</p> <p>九九をつかって数えてみよう。</p>	<p>○ 子どもを立たせ、数えられたら座るよう指示する。まず、アの絵を数秒見せ、「数えきれなかった。」という子どもの声を引き出す。次にイの絵も同じく数秒見せ、アとイを数えるのにかかる時間の差から、問いをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「イはずいぶんはやかったね。どうして？」と問うことで、「きれいに並んでいるから。」という子どもの言葉を引き出したい。</p> <p>○ 「どうして並んでいると簡単なの？」と問い返す。並んでいることで同じ数のまとまりが見えやすく、九九を使って考えることができるという子どもの見方を全体で共有し、本時のめあてへとつなげるようにする。</p>
<p>2 学習問題と出合い、見通しをもつ。</p> <p>○ 学習問題</p> <p>チョコレートは何こ？ </p>	<p>○ 九九を用いた数え方の一例を提示する。「○のいくつ分と○のいくつ分」というように、途中たし算を用いてもよいことを認め、見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>3 チョコレートの数を九九を用いて数える。</p> <p>○ 図→式</p> <p> ⇒ $5 \times 2 = 10 \quad 3 \times 3 = 9$ $10 + 9 = 19$</p> <p>○ 式→図</p> <p>$2 \times 2 = 4 \quad 3 \times 5 = 15$ $4 + 15 = 19$ ⇒  等</p>	<p>○ かけられる数とかける数の考えが逆になってしまっている子どもがいた場合は、その考えを全体で取り上げ、「○がいくつ分」という意味を全体で確認し、その見方・考え方を確かなものにする。</p> <p>○ 全体で発表させる際に、式だけ、図だけと分けて発表させ、その意味を考えさせたり、ペアで話し合わせたりすることで、式から図、図から式と子どもがかけ算の見方を広げられるようにする。</p>
<p>4 本時の学習をふりかえり、本単元学習への意欲を高める。</p> <p>○ 九九を使って数えることについて</p> <p>○ 別の図の提示</p>	<p>○ 九九を用いて数えることのよさを共有することで、まとめとする。</p> <p>○ 6の段を用いて数える図を提示することで、「他の段を覚えたらもっと別の数え方ができるのかな？」という思いをもたせ、今後の学習につなげたい。</p>

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

同じ数のまとまりを見付けると、九九が使えて数えやすくなるんだ。九九って便利だな。

6の段ができたなら、これからもっと他の数え方もできそうだな。早く他の九九も覚えたいな。

【関・意・態】【数学的な考え方】

